

体育会のご紹介

馬術部編

2024年のパリオリンピックで、92年ぶりのメダル獲得となった馬術。選手も体力より経験が大事ということで、年齢層が高めのチーム愛称「初老ジャパン」も反響を呼びました。今回は注目が高まる馬術と体育会馬術部の活動を簡単にご紹介します。

最新
情報

33年ぶりの快挙！

2024年12月7日～8日、兵庫県・三木ホースランドパークで開催された第96回全日本学生馬術選手権大会において、主将の光成拓海選手（経済学部4年）が優勝しました。この大会における本塾の優勝は33年ぶりとなります。

光成選手の障害馬術競技と表彰式の様子



馬術とは

馬術は、動物とともに行う競技であり、男女の区別なく同じ条件で実施されることが特徴で下記の3種目があります。

▶障害馬術

決められたコース上に設置された障害物を飛越します。障害物の落下や、馬が障害を避けたり止まったりすることなく、規定の時間内にゴールをめざす競技です。全日本学生では最大で高さ130cmの障害を飛越し、踏み切るタイミングの見極めが重要です。

▶馬場馬術

予め決められた運動課題をこなし、演技の正確性や馬の従順性などを0～10点で審判員が採点します。馬がまるで自ら楽しんでいるかのように躍動し、ダンスを踊るかのような印象を受けます。

▶総合馬術

上記の2つにクロスカントリー走行を加えた競技。クロスカントリーでは生垣や水壕などの自然を生かした障害物を飛越しながら長距離のコースを駆け抜け



ます。同じ人馬で行うため、双方の総合的な能力やテクニックが要求されます。また、3日間にわたるので馬のコンディション維持も重要です。

馬術部の概要

1920年に慶應義塾乗馬会として創立、2年後に慶應義塾体育会馬術部へと改称。創立から間もない1923年に『第1回関東乗馬大会』優勝をはじめ、各種大会で多数の団体・個人優勝を成し遂げてきました。現在では東京六大学馬術大会、全日本学生馬術大会、全早慶馬術定期戦など年間を通じて主要な大会が13ほどあり、目標達成に向けて練習を重ねて

います。また、慶應義塾高校、慶應義塾女子高校さらには慶應義塾中等部にも馬術部があり、大学生と同じ馬場・同じ馬で練習をしています。一貫して継続した活動ができるのは大きな強みで、昨今では慶應義塾高校3年の小川冬威君が第35回全日本高等学校馬術選手権で優勝するなど目覚ましい成果を挙げており、今後益々の活躍が期待されます。



馬術部員の日

動物の世話もあるため、部員の活動内容は他の競技と大きく異なります。平日の部員の過ごし方をご紹介します。

日吉の厩舎にいる10数頭の健康チェックを行います。7:00頃に全部員が集合し、馬に騎乗しての練習だけでなく、

馬の手入れや馬房の清掃なども行います。馬たちに昼の餌を与えたら午前の活動は終了です。午後の当番部員は掃除など馬の世話を行ないます。授業を終えた高校生や中等部生の練習、厩舎作業の後片付け、馬たちに夕方の餌を与えた17:30頃に一日が終了します。



* 2024年11月20日時点での情報です。

体育会馬術部公式Webサイト

<https://keio-equestrian.com/>

取材協力：体育会馬術部